

児発・放デイ事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 2 年 3 月 2 日

公表:令和 2 年 4 月 15 日

事業所名 空と虹のなーさりい・空と虹のアフタースクール

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		定められた基準は満たしています。	定員に満たした時には狭さを感じるので、使用頻度の少ない児発のスペースを有効に活用しています。
	2 職員の配置数は適切である	○		基準以上に職員を配置しています。	児発と放デイの利用が重なる時には、今以上の職員の配置が必要なので、職員の獲得に努めていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		限られた空間なのでわかり易く、バリアフリー化もされています。トイレは内扉なので、車椅子対応の場合は不可能です。	車椅子の場合は、施設内の高齢者サービスのトイレで対応していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		○	清潔ですが、放デイ用の独立した手洗い場がありません。	次年度の設置を検討しています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的にミーティングを行い、情報の共有に努めています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○	新規事業所のため、今年度初めて実施した。	保護者の意向をしっかりと把握し、業務改善に努めていきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		今年度初めて実施し、ホームページに公表します。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	行っていません。	必要に応じて実施し、業務改善に努めていきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○	事業所内の勉強会は、何度か行いました。	研修等への参加を増やせるよう、職員の人員確保に努めていきます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		面談して聞き取りを行い、保護者のニーズや課題を把握し、子どもの活動の様子を観察した上で計画書を作成しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		研修会等で配布された資料を基に作成したものを使用しています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		子どもの現状や保護者の意向(困りごと・願い)を踏まえて、必要な項目を選択し、支援計画を作成しています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画書の目標や内容(手だて)を共有して支援を行っています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		行っています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		マンネリ化しないようにイベント等を取り入れて、楽しみが持てるように工夫しています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動が多いが、子どもの発達課題に応じてSTの個別指導も組み合わせています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		午前中に行い、連絡事項の伝達やその日の活動内容を確認しています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員の退勤時間が違うので、翌日のミーティング時に振り返りを行っています。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の活動の様子を記録しています。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回のモニタリングを行い、達成度を確認した上で次に繋がる計画書を作成しています。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		保護者を含め、子どもの状況をよく知る事業所の担当者が参画しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて情報を共有し、支援しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		運営規程上対象外です。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		運営規程上対象外です。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		今年度は対象者がいませんでした。	必要に応じて実施し、情報の共有に努めていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		7月からの新規事業所のため行っていません。	次年度は対象となる児童がいるので、学校との連携を図り、情報の共有と理解に努めていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		相談支援センターや近隣の事業所のみです。	次年度より県障害児通園施設連合会に入会し、研修を通して他の専門機関との連携に努めていきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		交流は行っていません。	保育園や幼稚園が近くにあるので、今後は交流の機会が持てるような活動を検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			次年度は、市の自立支援協議会への参加に努めていきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		迎え時に、その日の子どもの様子を伝えるようにしています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			研修等に参加し、次年度から取り組んでいきます。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明しています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		作成した計画書の支援内容は、必ず保護者に説明した上で同意(印)を得ています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的には行っていません。保護者から相談等があった時には応じています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会は開催していません。親子で参加のイベントは行っています。	保護者同士の連携を支援するために、会の発足を検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		利用日の変更や延長時間の申し入れには、迅速に対応しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		法人としての会報は発行しています。事業所の行事等は、その都度お便りでお知らせしています。	次年度は、より計画的に情報を発信していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人が特定される書類は、すべてシュレッター処分しています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		わかり易く説明するように努めています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		事業所としてまだ周知が足りません。	事業所としての活動を確立していき、年に一度でも地域貢献に繋がる行事を検討していきます。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	マニュアルは作成しています。	次年度は、発生を想定した訓練を実施していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	避難訓練は毎月実施しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		確認しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	そば・牛乳・卵白・卵などのアレルギーの子どもがいますが、保護者からの聞き取りのみです。	児発は指示書を提出してもらっていますが、放デイも同様に改善していきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	日々の活動の中でヒヤリハットは挙げていますが、事例集はありません。	次年度は、早急に作成します。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		主任が研修を受けて、内容を職員と共有しています。	職員が研修会に参加できるように、人員確保に努めていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束は行わない方針の基で療育を行っています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。